

## 蛇のたたりのはなし

むかし、どこからやってくるのか百姓の家の鶏小屋に大きな蛇がきて、卵をのんでゆくのだとお。毎日のんでゆくののでこれではたまらないと、蛇退治の方法はないものかと相談をして、次の日卵に縫い針を十文字にさして鶏小屋に入れておいたんだとお。そうしているうちに大きな蛇がいくつか卵をのんでいたとお。その晩百姓男がやすんでいると、その寝床で何か足の方で冷たいものが、からまっていることに気づいて、気味悪くなって妻をよび起こし、あかりをともし足の方をすかして見たら、小さな蛇が足にからみついていたんだとお。「気味が悪い小蛇だ。なにこれしきでへこたれねえぞ。」と気丈な男は鎌をもって来させて、からんだ小蛇をかき切って外に捨てて休んだとお。あしたになって庭を見たら、かき切った蛇は七たんがら半もある大きな蛇となっていて、これはあの卵をのみきた蛇だったかと裏の山に葬って、そこを蛇塚として祀ったという。今でもその蛇塚が残されているんだとお。